

令和2年度第1回 関東地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会 議 事 概 要

1 開催日時：令和2年7月13日（月）～令和2年7月28日（火）

2 開催場所：各委員に個別に資料提示・説明

3 委員

委員長 池田耕一 （一社）経営倫理実践研究センター主席研究員

委員 赤松幸夫 赤松法律事務所 弁護士

〃 大野正英 麗澤大学 経済学部 教授

〃 岡本直久 筑波大学 システム情報系 教授

〃 山田努 筑波大学大学院 ビジネスサイエンス系 教授

（委員は五十音順）

4 議 事

令和元年度関東地方整備局コンプライアンス報告書（案）について

5 概 要

事務局が各委員に、令和元年度における関東地方整備局のコンプライアンスに関する取り組みについて、報告書案を提示して説明し、記載内容等について意見を伺った。

委員からは、報告書の内容について特に異論はなく、「各種の取組によりコンプライアンスの推進が図られている。マンネリ化を防止する方法を検討しつつ、継続してやっていくことが大事である。」と評価された。

【主な意見】

- ① 取組の継続は大事であるが、マンネリ化防止も必要である。手段を変えていく検討も行っていくべきである。
- ② 各所属の取組について、報告書に記載をするだけでなく、水平展開により、組織全体のコンプライアンス推進に活用してもよいのではないか。
- ③ コンプライアンスの取組の中で、職員の負担が増えてしまうものも見受けられるため、方法等について検討が必要である。
- ④ マンネリ化防止のための具体例を整理しておけば、今後の活動に役立つのではないか。
- ⑤ 事務所等横断的なミーティングについては、実施結果報告によると、「相当に有益なもの」と認められるにもかかわらず、週間に関するアンケートによると「参加希望職員が少ない」とされているため、参加者をランダムに指名する等の対策を検討すべきである。